

## 6. いんげんまめ

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M3	ジマンダイセン水和剤	散布	収穫 30 日前まで	4 回以内	
M1	硫酸銅	ボルドー液を調製して均一に散布する	-	-	

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アグロスリン乳剤	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	
1	エルサン乳剤	散布	収穫 7 日前まで	2 回以内	
1	サイアノックス乳剤	散布	収穫 7 日前まで	2 回以内	
1	スミチオン乳剤	散布	収穫 21 日前まで	4 回以内	
1	ダイアジノン粒剤 3	土壌混和	は種時	1 回	豆類（種実）
1	マラソン乳剤	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
炭 疽 病	5 月下旬～ 6 月及び 8 月下旬～ 9 月	1. ジマンダイセン水和剤 600 倍液、又は 4-4 式ボルドー液を散布する。	1. 高冷地及び遅まきでは発病が多い。 2. 無病種子を使用する。
角 斑 病	6 月～9 月	1. 4-4 式ボルドー液を散布する。	1. 無病地より採種する。 2. 耐病性品種を栽培する。 3. 輪作に努める。
葉 焼 病	6 月～9 月	1. 4-4 式ボルドー液を散布する。	1. 「金時」、「手無ながうずら」などの矮性種は発病が多い。病葉は焼却する。 2. 晩まきは、発病が少ない。 3. 輪作する。
さ び 病	7 月～成熟期	1. 4-4 式ボルドー液を散布する。	1. 輪作する。 2. 病葉は除去し、焼却する。
タネバエ	は 種 時	1. ダイアジノン粒剤 3 を 10 a 当り 5 kg、覆土前に種子と同位置に散布する。	1. は種期が早く、低温時に被害が多い。
アブラムシ類 (ウイルス病)	生 育 期 間	1. マラソン乳剤の 2,000 倍液を散布する。	1. 種子は、健全株から採取する。 2. 病株は早急に抜き取る。
インゲン テントウ	生 育 期 間	1. エルサン乳剤、サイアノックス乳剤、スミチオン乳剤の 1,000 倍液、アグロスリン乳剤、マラソン乳剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。	1. <b>アグロスリンは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</b>